

F-19 高等学校家庭科住居の学習指導に関する調査研究(第2報)

—— その2 高校生の自室の実態と志向 ——

滋賀県短大 ○榊原典子 大阪大 今井京子
奈良女子大 國嶋道子 武庫川女大 貴田康乃

目的および方法 その1に同じ。

結果 その2では、日常の住生活の中で高校生にとって最も身近な自分の部屋についての調査結果を報告する。子供部屋をもつものは94%と9割以上を占め、うち個室を有するものは72%である。子供部屋の広さは6畳(45%)および4.5畳(22%)が大半を占める。子供部屋でする行為は勉強(93%)睡眠(83%)ぼんやりする(74%)音楽鑑賞(68%)で高校生にとって子供部屋=勉強部屋であると言える。子供部屋はカーペット敷(46%)畳敷(37%)で和風壁(42%)新建材壁(34%)の仕上げであるがベッドを使用(50%)し洋風の感じ(61%)にして使用している。この子供部屋の住み方やインテリアについては家族の意見を参考にし自分の好みと合わせる(65%)または自分の好きなようにする(32%)で子供部屋は高校生の創意を反映できる空間である。掃除は自分でする(68%)でその頻度は週1回(40%)である。現在の子供部屋の満足度について、広さでは満足しているものの収納スペースに関しては不満が高い。子供部屋のないものはその行為を居間あるいは居間兼食事室で行なっている。希望の自室の広さは6畳(35%)あるいは8畳(32%)で住み方は洋風(51%)あるいは和洋混用(24%)でベッドの使用(68%)と洋風化志向が強い。自室に置きたい家具として机・本箱の他に、タンス(44%)ステレオ(36%)鏡台・ドレッサー(19%)休憩用いす(17%)およびテーブル(12%)等をあげている。